

安全登山シリーズ(8)

安全登山シリーズの8回目は『地図の読み方』読図の応用編です。

地形は尾根と谷で形成されています。谷道は登るに従って枝分かれをしてやがてピークかコルに突き上げます。逆に尾根道はピークから始まり枝分かれをしながら末端へ向います。読図という点から言えば尾根道の登りと谷道の下りは道が収斂するので楽です。しかし谷道には途中で滝がかかっていることがあるので不用意に下るのは危険です。

一般に谷道では上部が急傾斜で、尾根道は末端の傾斜がきついです。

稜線は尾根の一種ですがピークとコル(鞍部)から成っています。そしてすべての尾根はピークから派生しています。以上が地形を知る上での原則です。

前回、地図と磁石を使って現在位置を確認する方法を紹介しました。

しかし、実際の登山道では目標物が確認できる場所は限られています。またガスに覆われて目標物が見えないこともあります。

そこで筆者が行っている方法を次に紹介いたします。

基本的に事前、本番、事後と3回読図をしています。

事前読図では山全体の地形を把握し、現在位置が確認できる区切り地点を調べます。

この時、迷いやすい場所や危険と思われる場所についても調べます。

次に歩行予定コースの断面図をつくり、区切り地点間の所要時間を見積もります。

(所要時間の見積もりに関心のある方は連絡くだされば資料を提供いたします)

本番では常に地図の先読みを心掛けています。次の1ピッチの行程を予測するのです。

尾根道や稜線では ピークの位置、 コルの位置、 支尾根の合流、 道の傾斜、 左右の斜面の傾斜、 道は尾根上か巻き道か等です。

谷道では 支沢の流入位置、 左右の斜面の傾斜、 渡渉点の位置、 道と沢の間隔、 沢の傾斜等です。

傾斜の度合いは等高線の間隔を見れば分かりますが、地図から現場の風景を想像するためには訓練を重ねて慣れる必要があります。

筆者は地図と磁石の他に高度計を使って現在位置の確認をしています。

予測通りの地形が現れたら自信を持って歩くことが出来て安心です。

事後読図では予定通りの道を歩かなかった場合や予測と異なる場面について確認をしています。地図に書かれた登山道と実際の登山道が異なることはよくあることです。

それでは具体例として2008年1月に行った愛宕山初詣登山を見てみましょう。

清滝から表参道を登り、愛宕神社に初詣をした後、旧ケーブル駅跡に立ち寄り、水尾別れから通称ツツジ尾根を下って保津峡駅へ出ました。

ツツジ尾根の登山道は地図に書かれていませんので、この尾根の下りで注意すべき点を調べてみます。これが事前読図です。

別紙の地図で水尾別れから表参道を 250m 下った **A** 地点で 746m のピークから派生する尾根に入ります。表参道は水尾別れから 549m の五合目までは 746m ピークから東へ延びる尾根の南面をトラバースしています。このトラバース道が南にふくらんだ地点が **A** 点です。ここから尾根は緩やかに南東へ下って行きます。高度で約 100m 下った **B** 点で **B** から南へ向かって派生する支尾根に入らねばなりません。要注意地点です。

B 点から **C** 点までは約 30 度の急傾斜で 200m 下っています。左右の谷も切れ込んでいて気をつけて下る必要があると思われます。

C 点は水尾集落から落合を経て嵐山へ通じる旧道で、**C** 点が峠になっています。

C 点から南へ伸びる尾根道を歩き保津峡へ向かいます。**C** 点からは傾斜が緩くなりますが、途中に等高線が閉じた明らかなピークが 2 ヶ所あります。その他にも高度 10m 以下の小ピークになっていると思われる地点が 3 か所ありますのでアップダウンのある尾根道です。

注意する地点は **D** 点で最初は左に、次に 100m 先で右へ支尾根が分岐しています。

地図の破線道は末端で西の谷道へ下るようになっていますが、最後まで主尾根を下れば **E** 点に降りられます。

この通称ツツジ尾根も最近は多くの方が歩かれてしっかりした踏み跡がついています。しかし降雪で道が消えることもありますので地図と磁石で現在位置を確認しながら歩くことは大切です。筆者は高度計も併用しています。

断面図は水尾別れからツツジ尾根を下り保津峡駅までの高低図です。各区切り点間の距離・標高差・歩行推定時間が得られるようになっています。

本番読図では次の 1 ピッチの先読みが大切だと書きました。

2010 年 10 月の比叡山横断のときに、この先読みを怠った失敗例を記します。

大比叡の一等三角点 848.1m で小休止した後、延暦寺境内の阿弥陀堂へ下る予定でした。東へ 260m 進んだ **X** 地点に電波塔があり、ここまでは車が入る実線道です。ここからは登山道を示す破線道になり、さらに 150m 進んだ標高 800m の **Y** 地点で左折して阿弥陀堂へ下ることになっています。この左折点 **Y** には直進する道もあり分岐点になっています。大比叡を出発するときに、この点を先読みしておけば決して間違えることはない筈です。しかし実際は直進道 **Z** に入ってしまう 50m ほど下ってから気付いて登り返しました。

このような失敗はよくあることです。そして間違いに気付いて引き返すために、この道は 2 度歩くことになります。このため間違い道はかなりしっかりした道になります。

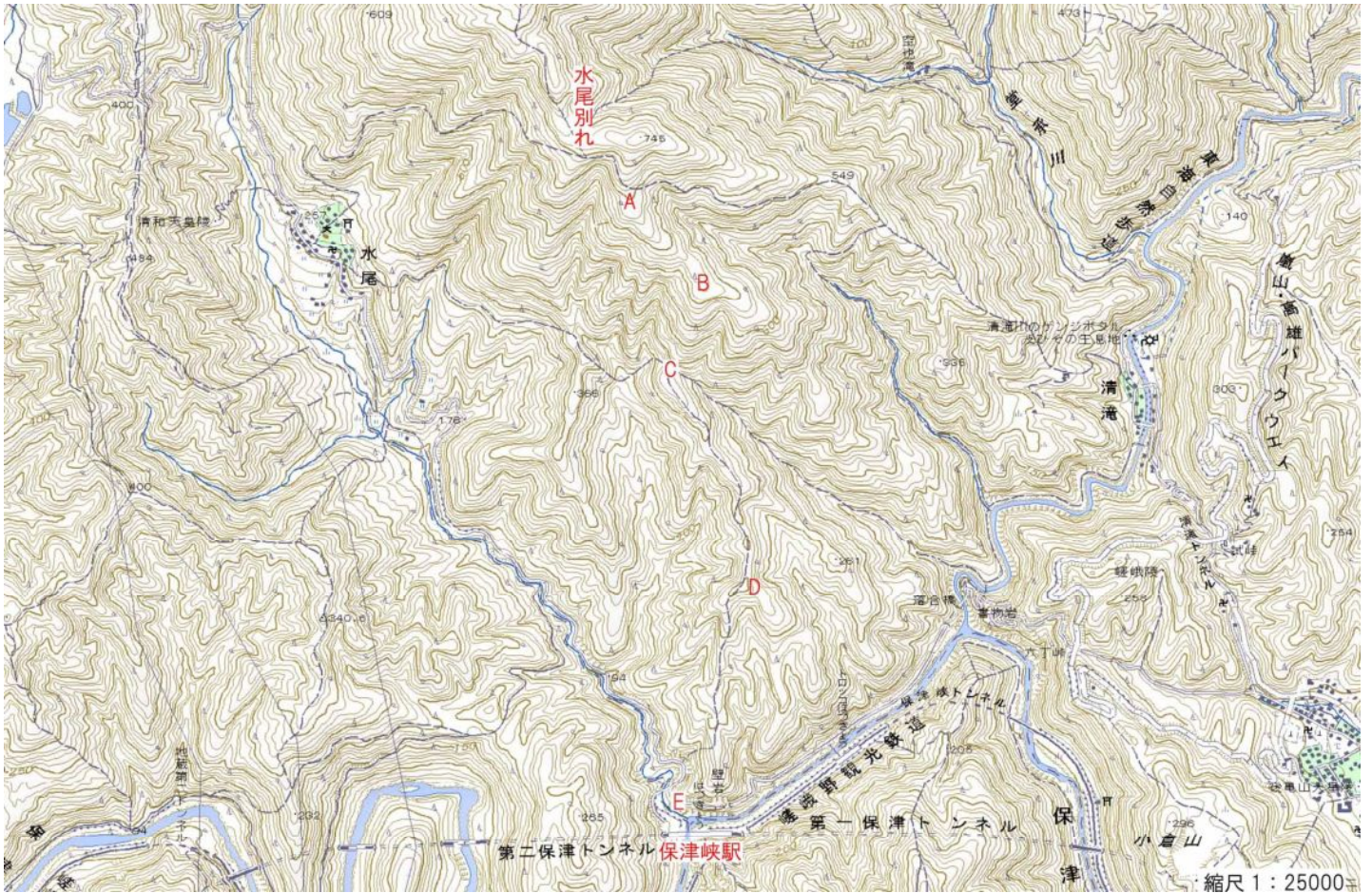
事後読図は計画・実行・反省の反省にあたります。

これを繰り返すことによって読図は確実に上達し、地図を見たら山の地形が浮かぶようになります。

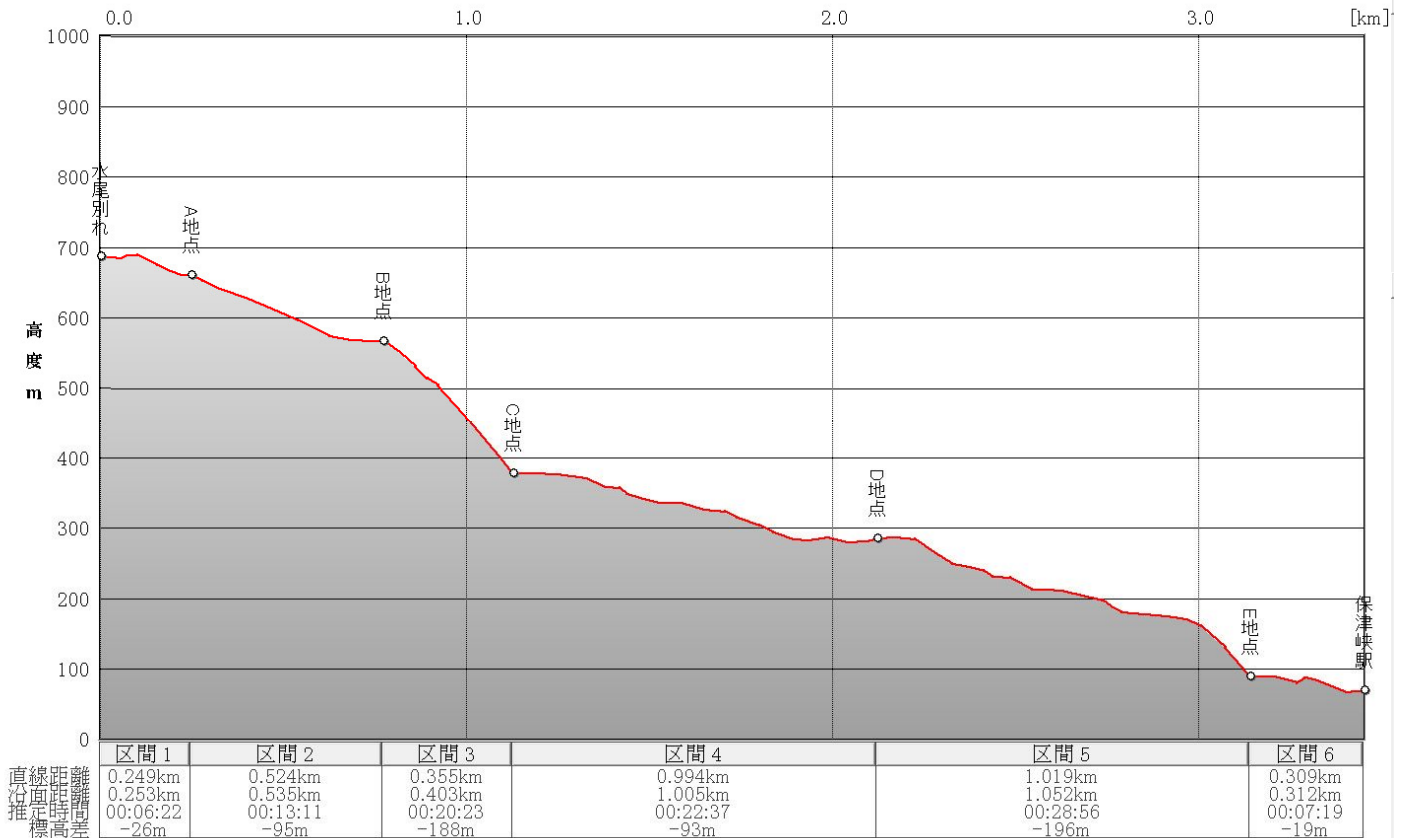


縮尺 1 : 25000

愛宕山地図（水尾別れ～保津峡駅）



水尾別れ～ツツジ尾根～保津峡駅の断面図



全区間 距離 3.450km、累計高低差登り 25m、下り 642m、推定歩行時間 1 : 39